

確かな学力向上を視点を、校内授業研究をどう振り返り、今後の研究をどう進めていけばよいのでしょうか・・・

子どもが生き生きとしている？発表の回数が増えた？確かな学力の向上のために、何を基準に校内授業研究を進めたらよいのだろうか・・・

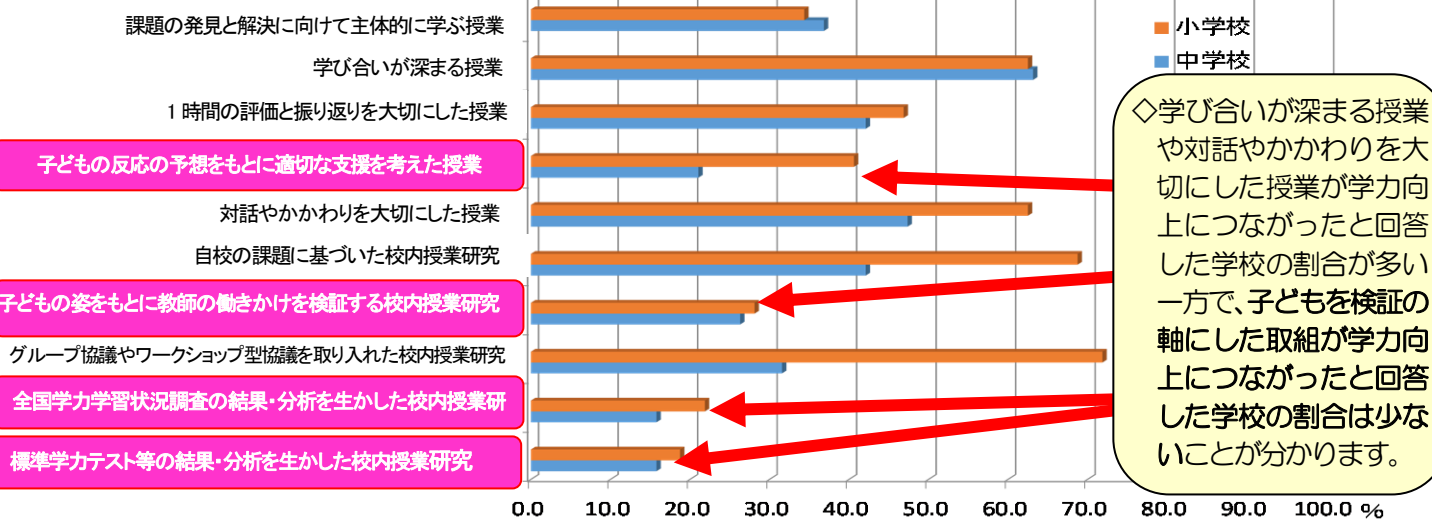


◇学力向上につながった取組や今後の研究推進について、25名の参加者による活発な協議が行われました。

こんな取組を始めてみませんか？

1 「データに基づく成果指標を取り入れた校内授業研究」の推進

学力向上につながった取組に○をつけてください。（第3回研究主任等情報交換会アンケートより）



◇学び合いが深まる授業や対話やかかわりを大切にされた授業が学力向上につながったと回答した学校の割合が多い一方で、子どもを検証の軸にした取組が学力向上につながったと回答した学校の割合は少ないことが分かります。

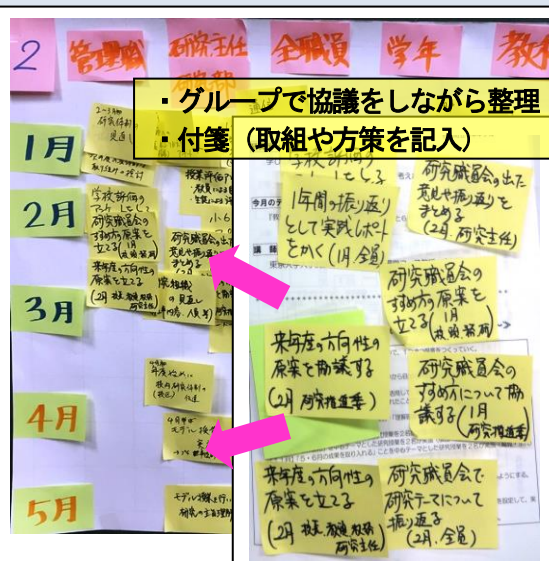
<成果指標の導入>

- ・全国学力・学習状況調査、標準学力テストの分析
- ・児童生徒・教員のアンケートの実施

□量的データ(学力調査等)や質的データ(児童生徒アンケート等)の結果から、子どもの成長を総合的に把握・分析し、指導の効果を検証していくことが大切です。指標を設定することで、研究の目的が具体化、明確化されます。また、子どもの変容や取組の成果について全職員で実感できるよさにもつながります。

2 校内授業研究を振り返り、課題や成果を共有し、全職員の総意で行う研究推進

<今後の研究推進のモデル案を作成>



<研究の取組例>

- 1月 アンケート(生徒・教員) 次年度に向けたフットワークの軽い研究チームの編成
- 2月 データ分析(テスト結果、蓄積した日々の評価など) 次年度の改善案作成・提案
- 3月 研究職員会で練り上げ・共有 次年度の改善案再提案 次年度のスケジュール案作成
- 4月 新メンバーで研究の方向性を確認、成果・課題の共有 思考力・判断力・表現力を育成する日常・授業づくり

□3学期に具体的に取り組みたいこと(参加者感想より)

- ・研究の柱に照らした子どもの実態把握
- ・いつでも、どこでも、何度でも活用しやすい「研究のまとめ」を作成(例)リーフレット パンフレットなど
- ・データの基になる指標の検討
- ・アンケート等の分析に基づく課題の洗い出し
- ・フットワークの軽い研究組織づくり

<次年度の研究推進に向けて>

- ・成果指標を取り入れることで、子どもの伸びが明確になる(研究の可視化により、モチベーションUP)
- ・研究主任のマネジメントで先生方一人一人の強みを生かしながら協働性の高まりにつなぐ。